

2014 年度秋学期  
学生による授業評価アンケート結果の評価

### 神学部

総じて教員の取り組みと学生の応答が良い結果を生んでいると言える。語学の多読は学生によく受け入れられていると思う。学生の専攻以外の授業がよき刺激となっていることが受け取れる。神学専攻でない学生が、神学を学ぶことの喜びを語り、神学専攻の学生が福祉学の授業に興味をもって取り組む相互作用が行われている。そのような授業についてFDとして聴講する機会があってもよいかもしれない。

### コア・教養

授業評価は概ね良好である。秋学期の教養・コア科目には、ティーム・ティーチングのクラスが少なく、それぞれの教員の個性が授業全体に生かされた学びが展開されている。クラス中のグループワークに関するポジティブな言及も多いが、反面、グループワークのためのインストラクションがクリアでないという記述も見られ、その点が反省材料として今後の授業に生かされるべきであろう。

### 神学科

2014 年度秋学期も、概ね大過なく、学生たちが神学科の提供授業を評価してくれている。まさに可もなく不可もなく一言にまとめることができる。昨今の学生たちが批判的に評価したり、苦情を申し立てたりする能力が減少しつつあるようにも思われるが、如何なものだろうか。全般的に、非常勤講師の担当する科目の方が、専任教員の担当する科目よりも学生たちの評価は少し低いようだが大きな差ではない。

### ACTE-ES

[1] The *highest* average rating for all classes (3.7) was “The instructor taught with passion and enthusiasm…” Ironically and disturbingly, though, the *lowest* average rating for all classes (3.45) was “I tackled the subjects in this class with enthusiasm…” Interpret as you will. [2] At least one student did not know which class he was evaluating in one instance. But even apart from this, perhaps most comments were too un insightful and too general (sometimes even copied and pasted) to be useful. [3] The average of weekly study hours rose to 2.23 from 2.2 in spring 2014.

### 国際キリスト教学専攻

国キ科目は語学5科目（英語4、韓国語1）、全専攻必修の「国キ入門」1科目、国際関係・異文化理解4科目（国際1、異文化3）だった。どのクラスもほぼ全ての項目が平均3を上回っていた。英語クラスでは多読により英語を学ぶことの面白さに気づいたなどの感想が多数見られて、取り組みが成功していることが分かった。ごくわずかに見られた改

善点に関する学生の意見を来年度のシラバス作成の参考としたい。

### キリスト教福祉学専攻

授業に対する評価は、概ね満足していると考えられる。ただし、改善点に補助教材の使い方や言葉使いなどが挙がっていた。学生がイメージできない部分に対しては、パワーポイントなどを使ったり、その状況に応じて理解しているかどうかの確認をするなど、もう一步授業内容の工夫が必要といえる。また、一部の学生に採点基準が不明瞭だという意見があったが、シラバスと違っているならば口頭や文書で指示するように徹底したい。

### 神学研究科

学生は概ね講義内容を理解し満足している。3週間で提供している神学・教会特殊研究V（宗教改革史）は講義時間が不規則で欠席率が0.9%だったが、他は0.67%以下であった。内容の高度さから、各項目の評価は高いが授業全体の理解は難しいと感じる傾向も見受けられる。聖書学特殊研究IV（歴史書研究）は学生がよく取り組み、評価も高かった。

### 教会音楽専攻科

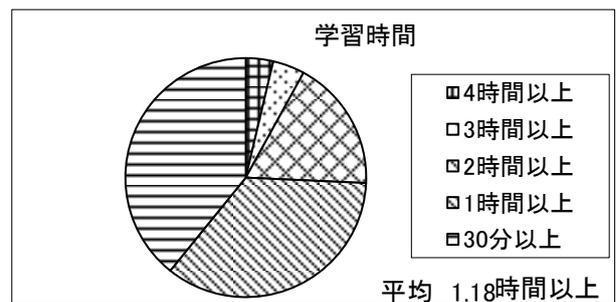
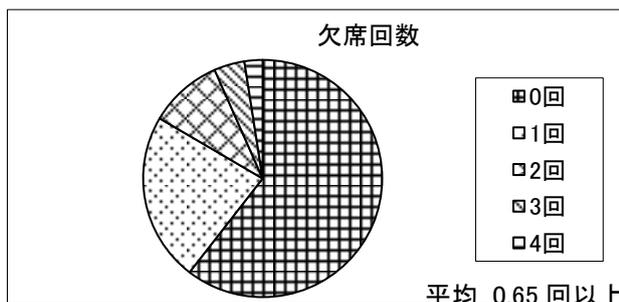
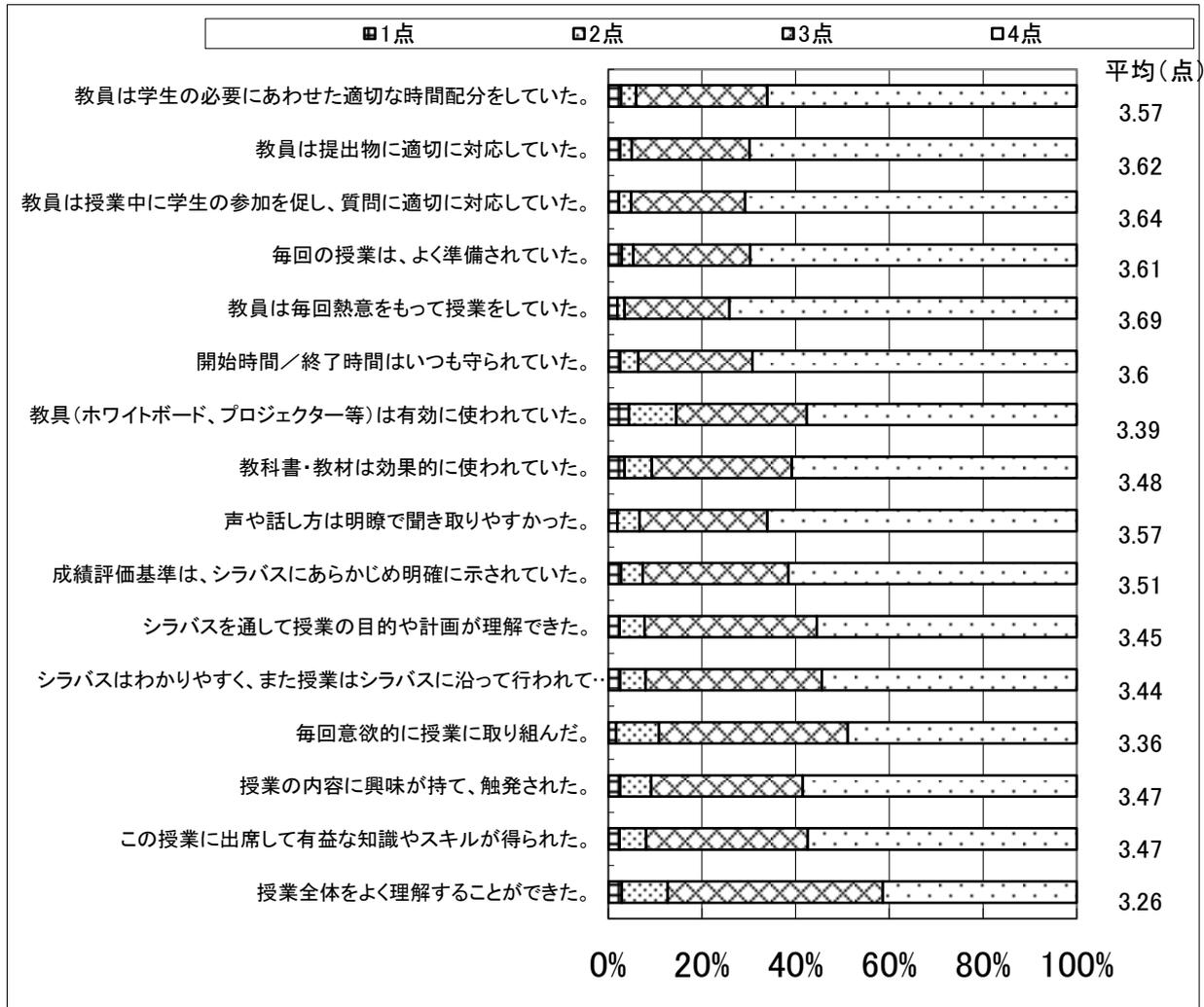
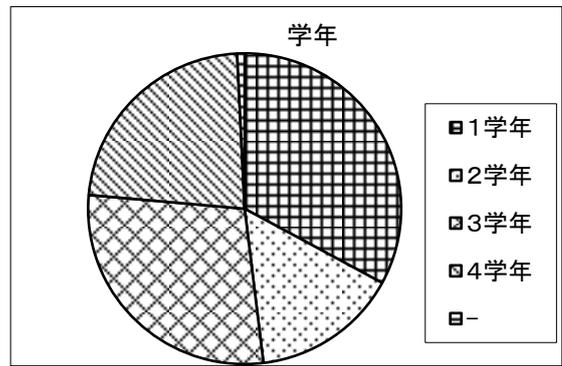
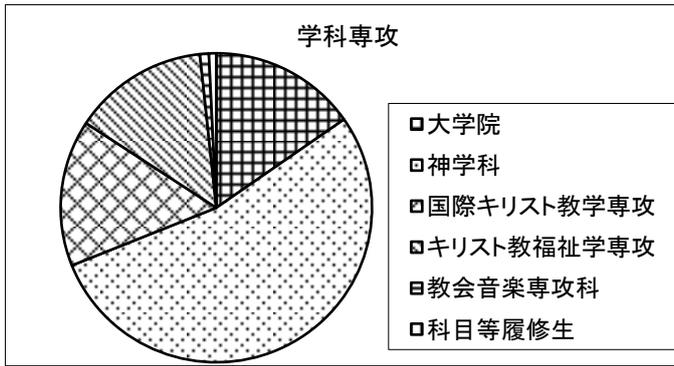
教会音楽専攻科の学生たちは、モチベーションが大変高く、学業への取り組みも目を見張るものがある。個人レッスンにおいても、予習、復習もきちんとなされる場合が多く、技術を確実に体得している。ただ音楽の場合は、入学時での音楽経験、演奏技術に差があるため、達し得ているレベルが違っていると教員に授業の進め方に工夫が求められる。また教員は、基礎を繰り返し確実に定着させるか、応用まで提供するかは、年齢も含めた判断が求められる。

2015年1月13日

教授会 資料

# 2014年度授業評価アンケート結果

学期 秋学期  
科目名 日本語提供科目平均



# 2014 Class evaluation result

Term Course Title Fall ACTS-ES(average)

